

# ■ 北方四島共同経済活動官民現地調査

(一社)寒地港湾技術研究センター 企画部長 宮部秀一

## はじめに

平成 28 年(2016)12 月の安倍総理大臣とプーチン・ロシア連邦大統領との会談を踏まえた共同経済活動に関する北方四島(択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島)への官民現地調査団の一員(港湾)として、平成 29 年 6 月 27 日から 7 月 1 日まで国後島(古釜布港)、択捉島(内岡港)及び色丹島(穴澗港及び斜古丹港)を視察する機会を得たため、概略を報告します。

## 1. 官民現地調査団の概要

調査団は行政(国、北海道、自治体)、関係団体等、69 名により構成され、両国間で協議が整ったインフラ(港湾含め)部門をはじめ 6 分野について、日々 3～4 グループに分かれて関係施設の見学、ロシア側(サハリン州政府、利用者等)との意見交換を行いました。

## 2. 行程、視察港(表-1、図-1 参照)

各島間の移動、宿泊は北方墓参事業等に使用されて

表-1 行程表

月 日	行 程	視 察 港	備 考
6 月 27 日	根室港 → 国後島		入域手続 (古釜布港)
28 日	国後島 → 択捉島	古釜布港	
29 日	択捉島 → 色丹島	内岡港	
30 日	色丹島 → 国後島	穴澗港、斜古丹港	
7 月 1 日	国後島 → 根室港		出域手続 (古釜布港)



国後島古釜布港沖における沖荷役



色丹島穴澗湾 天然の良港



択捉島内岡港 岸壁背後に水産加工場



色丹島穴澗湾における沈船、放置船

いる「えとぴりか号(1,124 総トン)」で行いました。

### 3. まとめ

限られた4港だけの現地調査でしたが感じた点は以下のとおりです。

- ①港湾は岬、湾等の自然地形を利用して配置されており、すべての港湾において防波堤を確認できなかった。外郭施設としては一部に防波護岸が整備されているのみであった。
- ②岸壁天端が高い。特に外洋に面した岸壁の天端高は高く、防舷材設置のための工夫も見られた。(流水、高波浪対策と思われる)
- ③鋼構造(栈橋、鋼矢板式)が多い。重力式構造と思われたのは古釜布港において埋め殺し型枠として鋼材を用いた岸壁のみであった。
- ④近年は下請企業も含め、韓国企業が港湾建設に携わっている。
- ⑤三島すべてで生コンクリートプラントを確認した。また、択捉島ではアスファルトプラントも確認した。
- ⑥北方四島と言っても港湾については同一整備水準ではない。特に古釜布港の施設は老朽化が進行している。

### おわりに

今回、官民現地調査団の一員として、はじめて北方四島を訪問しました。

視察は限られた港湾でしたが、沖取り(沖荷役)をはじめ、数多くの沈船、座礁船等の存在等、北海道内では見られない状況も確認できました。一方、岸壁直背後に水産加工場を整備する等、効率的な活用方法も視察できました。

また、船員曰く「1年に数度しかないベタなぎ」が続き、各港とも防波堤が整備されていない影響が確認できませんでした。現状把握には高波浪時における港内波浪の状況確認が必要と感じました。

紙面の都合上、本調査の詳細につきましては「海と港 No.35」に掲載します。

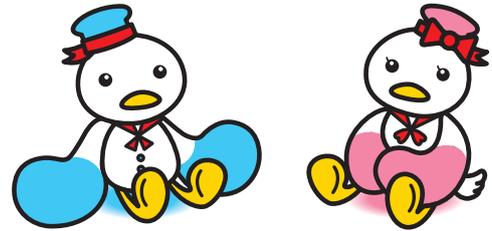


図-1 視察港